

令和8年用ほうれんそう・スイートコーン・ながいも病害虫防除基準

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発行: J A さがえ西村山
さがえ西村山野菜振興協議会

ほうれんそう

防除時期	対象病害虫名	RAC	防除方法〔収穫前使用日数/使用回数〕	注意事項
生育期	ベと病	U17 21 40	ピシリックフロアブル 1,000倍(10ml/10ℓ) [前日まで/2回以内] ランマンフロアブル 2,000倍(5ml/10ℓ) [3日前まで/3回以内] レーベスフロアブル 2,000倍(5ml/10ℓ) [3日前まで/2回以内]	のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。
	アブラムシ類	1B 4A	マラソン乳剤 2,000倍(5ml/10ℓ) [14日前まで/4回以内] アドマイヤーフロアブル ^④ 4,000倍(2.5ml/10ℓ) [前日まで/2回以内]	のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。
	ホウレンソウ ケナガコナダニ	6 13 10B	アファーム乳剤 2,000倍(5ml/10ℓ) [3日前まで/2回以内] コテツフロアブル ^④ 4,000倍(2.5ml/10ℓ) [2葉期、但し収穫14日前まで/1回] ネコナカットフロアブル 1,000倍(10ml/10ℓ) [3日前まで/2回以内]	のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。
	ハスモンヨトウ	5	ディアナSC 2,500倍(4ml/10ℓ) [前日まで/2回以内] を10a当たり100~300ℓ散布する。	1. ディアナSCは、アザミウマ類、ハモグリバエ類、ホウレンソウケナガコナダニにも登録がある。

除草剤使用基準

薬剤名	RAC	10a当たり薬量/散布量	使用時期	使用方法	使用回数	適用雑草	特性	
土壤処理剤	ラッソール乳剤	15	150ml/100ℓ	は種直後	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・イネ科、カヤツリグサ科雑草には効果が高い。 ・砂壌土では使用しない。 ・薬剤処理は土壌表面が乾いた状態で行う。
	アージラン液剤	18	800ml/100~200ℓ	は種後~子葉展開期	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・吸収移行型除草剤 ・カヤツリグサ科雑草には効果が劣る。 ・25℃以上の高温時は使用しない。
処理剤	ナブ乳剤	1	150~200ml/100~150ℓ	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期)(収穫7日前まで)	雑草茎葉散布	1回	一年生イネ科雑草	・イネ科作物には薬害があるので注意 ・選択性で枯死するまでに7~10日必要 ・スズメノカタビラには効果がない。

スイートコーン(未成熟とうもろこし)

防除時期	対象病害虫名	RAC	防除方法〔収穫前使用日数/使用回数〕	注意事項
生育期	出芽時	ネキリムシ類	1B ダイアジノン粒剤5 [出芽時/1回] を10a当たり6kg土壌表面に散布する。	1. 出芽時に1回のみの使用とする。なお、移植栽培には使用しない。
	アワノメイガ	30	プロフレアSC 2,000倍(5ml/10ℓ) [前日まで/3回以内]	1. プロフレアSCは、ツマジロクサヨトウにも登録がある。
		28	プレバソングロアブル5 2,000倍(5ml/10ℓ) [前日まで/3回以内]	2. プレバソングロアブル5は、オオタバコガ、ツマジロクサヨトウにも登録がある。
		1B	エルサン乳剤 ^④ 1,000倍(10ml/10ℓ) [14日前まで/4回以内]	3. 合成ビレスロイド剤(アグロスリン乳剤 ^④)は、蚕・魚類に対する毒性が特に強いので注意する。なお、抵抗性害虫出現防止のため総使用回数は2回以内とする。
		3A	アグロスリン乳剤 ^④ 2,000倍(5ml/10ℓ) [7日前まで/3回以内]	4. アグロスリン乳剤 ^④ は、アブラムシ類、アワヨトウにも効果があるが、アワヨトウと同時防除する場合は1,000倍で散布する。
	(黒穂病)			1. 紺糸抽出期以降発病株は胞子が飛散しないうちに抜取り適切に処分する。 2. 発病が甚だしいときは3年くらい他の作物を栽培する。
	すす紋病	3	トリフミン水和剤 2,000倍(5g/10ℓ) [7日前まで/3回以内] を10a当たり100~300ℓ散布する。	1. 8月中、低温多湿のときに発病が多い。 2. 8月中、早期に肥切れすると発生が多くなるので、窒素、カリ肥料および堆肥を十分施す。 3. EBI剤(トリフミン水和剤)は、耐性菌出現防止のため、総使用回数は2回以内とする。
	(ごま葉枯病)			
	紋枯病	14	リゾレックス水和剤 1,500倍(6.6g/10ℓ) [14日前まで/2回以内] を10a当たり100~300ℓ散布する。	
	アブラムシ類	29 4A	ウララDF 4,000倍(2.5ml/10ℓ) [3日前まで/2回以内] モスピラン顆粒水溶剤 ^④ 4,000倍(2.5g/10ℓ) [前日まで/3回以内] 敷布する。	
	(倒伏細菌病)			1. 発病ほ場では連作を避ける。 2. 発病株は早期に抜き取り適切に処分する。

除草剤使用基準

薬剤名	RAC	10a当たり薬量/散布量	使用時期	使用方法	使用回数	適用雑草	特性	
土壤処理剤	ゴーゴーサン乳剤	3	200~400ml/70~150ℓ	は種後出芽前(雑草発生前)	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・土壌が過湿の場合は使用しない。 ・キク科の雑草およびツユクサには効果が劣る。
	ラッソール乳剤	15	300~600ml/100ℓ	は種後出芽前	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・イネ科、カヤツリグサ科雑草に効果が高い。
茎葉処理剤	バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	6	100~150ml/70~100ℓ	とうもろこしの生育期(雑草の3~6葉期)(但し収穫50日前まで)	雑草茎葉散布	1回	一年生雑草	・砂質土壌では使用しない。 ・イネ科雑草には効果がない。 ・散布は晴天時におこなうが、異常高温下での散布は薬害を生じる恐れがあるので避ける。

ながいも(やまのいも)・むかご収穫の場合は基準が異なるため、JA等に相談のうえ使用する。

防除時期	対象病害虫名	RAC	防除方法〔収穫前使用日数/使用回数〕	注意事項
植付け前	ネグサレンセンチュウ	8A	DC油剤 ^④ [作付の10~15日前まで/1回] を10a当たり15~20ℓ(1穴当たり1.5~2ml)全面または作条処理する。	1. 使用にあたっては、安全対策を行い、使用方法、注意事項を守り適切に処理する。
植付時	アブラムシ類 コガネムシ類	4A	アドマイヤー1粒剤 10a当たり4kg [植付時/1回] を植溝土壌混和する。	
生育期	炭そ病	M5 UNM3 11	ダコニール1000 1,000倍(10ml/10ℓ) [30日前まで/6回以内] ペンコゼブ水和剤 600倍(16.6g/10ℓ) [21日前まで/4回以内] メジャーフロアブル 2,000倍(5ml/10ℓ) [前日まで/3回以内]	のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。
	アブラムシ類 (ヤマノイモコガ)	3A	アディオン乳剤 2,000倍(5ml/10ℓ) [7日前まで/5回以内]	のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。
	(ナガイモコガ)	4A	モスピラン顆粒水溶剤 ^④ 4,000倍(2.5g/10ℓ) [7日前まで/3回以内]	のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。
(モザイク病)			生育初期にアブラムシ類の防除を徹底する。	1. 無病のいもを使用する。 2. 発病株は早期抜き取り適切に処分する。

除草剤使用基準

薬剤名	RAC	10a当たり薬量/散布量	使用時期	使用方法	使用回数	適用雑草	特性	
土壤処理剤	トレファノサイド乳剤	3	200~300ml/100ℓ	植付直後	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科雑草には効果がない。
	トレファノサイド粒剤2.5	4~6kg	生育初期(植付30日前まで)	畦間土壌散布	1回	一年生雑草	・ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科雑草には効果がない。	
茎葉処理剤	ロロックス	5	100~200g/70~150ℓ	植付直後	全面土壌散布	2回以内	一年生雑草	・砂質土壌では使用しない。 ・葉液がかかると薬害を生ずるので、作物にからぬように畦間で散布する。
	ナブ乳剤	1	150~200ml/100~150ℓ	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期)(但し収穫60日前まで)	雑草茎葉散布又は全面散布	1回	一年生イネ科雑草	・イネ科作物には薬害があるので注意する。 ・選択性で枯死するまで7~10日必要。 ・スズメノカタビラには効果がない。
バスタ液剤	10	300~500ml/100~150ℓ	収穫30日前まで(雑草生育期:植付前又は畦間処理)	雑草茎葉散布	3回以内	一年生雑草	・非選択性	

農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。

成分名	農薬名	使用回数	同一成分総使用回数	備考
トリフルラリン	トレファノサイド乳剤	1回	1回	
	トレファノサイド粒剤2.5	1回		